

府省名	総務省	部署名	統計局統計調査部国勢統計課
-----	-----	-----	---------------

取組のポイント

「人口推計」は、各月1日現在の人口を国勢調査や他の人口関連資料を参考に推計するものであるが、これまで時系列で利用するには利用者が月ごとのデータをダウンロードして連結する必要があった。そこで、他省庁の統計データの受領業務と審査業務をシステム化し、職員の業務負担を軽減しつつ、利用者がホームページ上で時系列データを利用できるデータベースを構築した。これにより統計データ利用者の利便性を向上させるとともに、担当職員の仕事のやりがいを向上させることもできた。

取組概要

【取組の背景】

国民経済の健全な発展や国民生活の向上に資する公的統計の有用な整備・提供するために、改めて業務を見直した。人口推計については、従来、時系列データを利用するには、利用者が月ごとのデータをダウンロードして連結する作業が必要だったため、時系列でデータが利用できるデータベースを構築することとした。

【取組の内容】

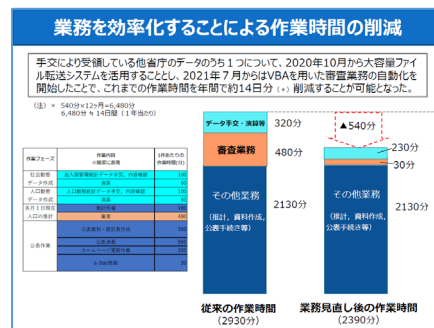
人口推計の時系列データベース化については、国勢統計課で、推計時期によって数値が2回変化するという人口推計の結果の特殊性を考慮した上、データベースの構造設計を行った。

また、職員の業務負担を軽減する目的で以下2点の取組を行った。

- ① 人口推計に利用する他省庁の統計データを、大容量転送システムを使用して該当省庁から入手することを可能としたことから、当該システムでの送受信が可能な省庁について、毎月、当該省庁に出向いてデータを入手する必要がなくなった。
- ② 人口推計データの審査業務について、誤りがないかの確認業務にマクロを導入。毎月、紙で出力されたデータを8時間かけて目視で確認していたが、マクロ化により目視の必要がなくなった。

【取組の成果】

利用者にとってより利用しやすい統計データの提供が可能となった。また、統計データの受領に要する時間は月320分から230分へと90分削減、審査業務については、480分から30分へと450分削減され、これまでの作業時間を年間6,480分（＝約14日分）削減することができた。単純作業を減らして担当職員の負担を上げずに、サービスの向上を図れる取組となることで、担当職員の仕事のやりがいを向上させることもできた。



講評

統計データの利便性向上を図りつつ、職員の業務時間を年間約14日分削減するなど、行政サービスの質を向上させながら、同時に業務効率化を進め、担当職員の仕事のやりがいを向上させた点で高く評価できる。